

令和6年度 第2回千葉市スポーツ推進審議会議事録

- 1 日 時 令和7年3月25日(火) 午後2時00分～午後4時15分
- 2 場 所 千葉市役所新庁舎(高層棟)2階 XL会議室203
- 3 出席者 (委員)
小川直哉会長、五月女重夫副会長、梅村芳延委員、佐倉和明委員、佐藤和子委員
高橋薫委員、馬場宏輝委員、吉澤裕子委員、利涉敏江委員
(事務局)
須長スポーツ振興課担当課長、伊橋スポーツ振興課長補佐、奈良担当課長補佐
内山主査、吉井主査、田口主査、田母神主任主事、松本主事、島崎主事
太刀川保健体育課長、東主任指導主事、青木主任指導主事
布施公益財団法人千葉市スポーツ協会事務局補佐

4 議 題

(1) 報告

- ア WEBアンケート調査の結果
- イ 令和6年度スポーツイベントの開催状況
- ウ 令和6年度トップスポーツ連携事業
- エ 令和6年度千葉市スポーツ功労者
- オ 令和6年度教育・文化・スポーツ功労者
- カ 市民意識調査の結果について
- キ 部活動地域移行について

(2) 議 事

令和7年度のスポーツ団体に対する補助金の交付(案)について

5 議題の概要

(1) 報告

7項目の報告を行った。

(2) 議事

令和7年度のスポーツ団体に対する補助金の交付(案)についてご審議いただいた。

6 会議経過

開 会 午後2時00分

【伊橋課長補佐】本日の進行を務めます、スポーツ振興課の伊橋でございます。なお、本審議会は千葉市情報公開条例により、公開することになっております。本日傍聴者はおりません。なお、会議終了後、議事録の作成、議事録の確定を行い、開示されることとなりますので、あらかじめ御了解ください。それでは次第に従いまして、はじめに、小川直也会長にご挨拶をお願いいたします。

【小川会長】みなさんこんにちは。本日は、年度末のお忙しい中、令和6年度第2回スポーツ推進審議会にご出席いただきましてありがとうございます。

昨年は、パリ 2024 オリンピック・パラリンピックが開催され、日本代表選手が活躍されました。また、アメリカにおいてはメジャーリーガーの大谷選手が3度目の MVP を獲得。イチロー選手がアジア人として初のアメリカ野球殿堂入りを果たすなど、私たちに夢と感動を与えてくれました。

今年は7月に世界最高峰のバレーボール国際大会である「バレーボールネーションズリーグ」が開催されます。市民の皆さんが間近にプロスポーツを観戦することができる機会に大変うれしく思います。

さて、千葉市では、平成27年に策定しました千葉市スポーツ推進計画に基づいて様々な施策を実施してきましたが、令和7年度をもちまして改訂となります。本日は計画改定に向けて12月に行いました市民意識調査の結果をふまえた報告および審議を行います。委員の皆様の貴重なご意見を頂戴できればと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。

【伊橋課長補佐】ありがとうございます。続きまして、スポーツ振興課須長担当課長よりご挨拶申し上げます。

【須長担当課長】みなさんこんにちは。スポーツ振興課担当課長の須長でございます。生活文化スポーツ部長の堺が別の公務のため、代わりましてご挨拶させていただきます。

委員の皆様方には、日頃より市政に多大なるご尽力いただいておりますこと、誠にありがとうございます。

さて、昨年は、パリ 2024 オリンピック・パラリンピックが開催され、スポーツに対する注目度が一段と高まり、スポーツが身近になった年であると感じているところでございます。このパリ 2024 オリンピック・パラリンピックでは、本市にゆかりのある選手も多く活躍し、体操男子団体に金メダルを獲得した千葉市出身の萱和磨選手、パラリンピック車いすラグビーで金メダルを獲得した市内在住の羽賀理之選手など、市民に多くの夢や感動を与えていただきました。

さらに、今年度はホームタウンチームの活躍も目立っており、千葉ロッテマリーンズのリーグ3位をはじめ、現在もシーズンが続いておりますが、アルティエリ千葉のB2リーグ東地区優勝、2月末から始まりましたJ2リーグではジェフユナイテッド市原・千葉がクラブ史上初の開幕6連勝と、各チーム共に目を離せない展開となっております。また、X ゲームズちば、アジアトライアスロンパラカップ（2024/千葉）、パラスポーツフェスタ、スポレク祭等、各種スポーツイベントが滞りなく開催され、多くの市民に多種多様なスポーツに触れていただくことができました。これもひとえに本市のスポーツ施策をそれぞれのお立場から支えていただいている皆様のご尽力によるものであり、誠にありがたく、改めまして心より御礼申し上げます。

本日は、令和6年度における各事業等の実績報告および、令和8年度から策定となります新たなスポーツ推進計画に係る市民意識調査の結果報告をさせていただくとともに、令和7年度のスポーツ団体に対する補助金の交付（案）について審議いただきます。限られた時間ではございますが、よろしくお願いいたします。以上、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【伊橋課長補佐】それではこれからの進行につきましては小川直也会長にお願いいたします。

【小川会長】それではまず、「議事録署名人」についてですが、先程、進行の方から説明がありましたように、本審議会は会議の公開がされているわけでございます。議事録の確定方法につきましては、「あらかじめ指名された委員」による承認にしたいと思いますが、よろしいですか。

- 【各 委 員】＜異議なし＞
- 【小川会長】それでは、議事録署名人として、梅村委員にお願いしたいと思います。梅村委員よろしくをお願いいたします。
- 【梅村委員】＜了承＞
- 【小川会長】それでは、会議次第に従いまして、進めてまいりたいと思います。最初に、報告事項アの「WEBアンケート調査の結果について」、スポーツ振興課よりお願いします。
- 【田口主査】＜資料1により報告＞
- 【小川会長】それではただいまの報告の中で何かご質問等ありますか。
- 【佐倉委員】「市内で現地観戦したいスポーツは何ですか。」について、こちらの回答は選択式になるのでしょうか。もしくは記述式になるのでしょうか。
- 【田口主査】こちらは選択式になります。
- 【佐倉委員】ありがとうございます。
- 【利渉委員】「パラスポーツに興味・関心はありますか」について、前年度より関心度が7%下がったとのことですが、通常であれば、パリ 2024 パラリンピックが開催されたということもあり関心度は上がると思うのですが、前年度より関心度が下がった原因についてなにか分析されているようであれば教えていただけないでしょうか。
- 【内山主査】現時点では分析はまだできておりません。アンケートの回答者の年齢や性別などのデータもあるため、そのようなデータも用いてアンケート結果についてあらためて整理し、今後の施策に活用していきたいと思います。
- 【利渉委員】ありがとうございます。
- 【馬場委員】回答者の年代が分かるような資料はあるのでしょうか。
- 【田口主査】ございます。
- 【馬場委員】ありがとうございます。
- また、パラスポーツの興味・関心について、浸透すればするほど、あえて興味・関心とは言わずに、パラスポーツがあたりまえという意識になると、結果も変わってくると思いますので、そういったところも踏まえ分析いただければと思います。「パラ」がとれてすべてスポーツになるような世の中になれば良いなと思います。
- 【小川会長】ちなみに、年齢別で回答が一番多かったのはどの層になるのでしょうか。
- 【田口主査】上から、50代、60代、70台以上、40代、30代、20代、10代の順になります。
- 【小川会長】ありがとうございました。それでは次に、報告事項イの「令和6年度スポーツイベントの開催状況」についてスポーツ振興課よりお願いいたします。
- 【田口主査】＜資料2により報告＞
- 【小川会長】それではただいまの報告の中で何かご質問等ありますか。
- 【各 委 員】＜なし＞
- 【小川会長】続きまして、報告事項ウの「令和6年度トップスポーツ連携事業」についてスポーツ振興課よりお願いします。
- 【田口主査】＜資料3により報告＞
- 【小川会長】ただいまの報告について、質問・ご意見等ございますでしょうか。
- 【馬場委員】アルティアリー千葉の訪問校数が多いが、どのように回しているのでしょうか。
- 【梅村委員】私とユースコーチの2人1組で行いました。
- 【五月女副会長】小学校・中学校の比率はどのくらいになるのでしょうか。また、別枠の訪問校数については何が違うのでしょうか。

- 【田口主査】市で行っている訪問事業は、毎年希望調査やマッチングを行い調整しておりますが、結果としてほとんど小学校での実施となります。また、資料中別枠の訪問校数については、当課が行っている事業以外の数になります。
- 【五月女副会長】ありがとうございます。
- 【小川会長】続きまして、報告事項エの「令和6年度千葉市スポーツ功労者」、報告事項オの「令和6年度教育・文化・スポーツ功労者」についてスポーツ振興課よりお願いします。
- 【奈良担当課長補佐】＜資料4,5により報告＞
- 【小川会長】ありがとうございました。ただいまの報告について、質問・ご意見等ございますでしょうか。
- 【各委員】＜なし＞
- 【小川会長】続きまして、報告事項カの「市民意識調査の結果」についてスポーツ振興課よりお願いします。
- 【田口主査】＜資料6により報告＞
- 【小川会長】ありがとうございました。ただいまの報告について、何かご質問・ご意見等ございますでしょうか。
- 【高橋委員】前回の調査はいつ行ったのでしょうか。
- 【田口主査】前回の調査は令和元年度に行いました。
- 【高橋委員】ありがとうございます。また、P8の「競技ごとの現地観戦率」の結果について、男女別での回答結果はあるのでしょうか。というのも、中学や高校の学生時代にどれだけどのスポーツに関わったかによって、将来スポーツを観戦する種目に影響がでてくるのではないかと思いますので、男女別での回答結果を知ることができれば良いと思います。
- 【田口主査】今回の報告では単純集計の結果のみとなっております。後ほど、クロス集計結果ができましたら共有させていただきます。
- 【高橋委員】わかりました。ありがとうございました。
- 【小川会長】その他、何かございますでしょうか。
- 【佐倉委員】「現行計画の施策評価」について、満足度および重要度はどのような回答項目で質問されているのでしょうか。
- 【田口主査】満足度および重要度について、5段階の選択肢にわけて質問しております。満足度であれば、1から「満足」、「やや満足」、「やや不満」、「不満」、「分からない」という選択肢となっております。
- 【佐倉委員】ありがとうございます。
- 【馬場委員】「スポーツボランティア参画意向」の結果について、スポーツボランティアへ参加しやすくなることやスポーツボランティア文化を醸成するといった事業そのものがないため、「行いたくない」と回答した人の割合が多いのではないかと考えます。また、「どちらとも言えない」と回答した方が半数近く占めるのは、市民の問題というよりもボランティアを受け入れる団体の問題ではないか思います。たとえば、受け入れ方が分からない、どのようなマネジメントをすればよいか分からないといったところから、ボランティアそのものを受け入れておらず、このような結果になったのではないかと考えますので、具体的な事業があるとよいなと思いました。
- 【小川会長】ありがとうございます。そのほか何かございますでしょうか。
- 【佐倉委員】「ボランティア参画する条件」の結果について、「どんな動機付けがあってもしない」と回答した人の割合が2割以上となっており、この回答をした方を動かすような取り組みを実施しないといけないと思います。

また、「スポーツを“する”ことについて」の回答数が減っているのはどのような理由があるのでしょうか。

【田口主査】こちらの問いに対しては、「施設を利用している」と回答した方の深堀りとなりますので、使った方の回答数となっております。

【佐倉委員】わかりました。「施設を利用していない」と回答した人の施設に対する満足度が分かるような資料はございますか。

【田口主査】今回の調査では、運動スポーツを実施したか、またスポーツをどこで実施したかという設問に対して「施設を利用すると回答」した方への満足度を伺ったものとなっておりますので、それ以上の資料はございません。

【馬場委員】「スポーツ実施場所」の選択肢に公共施設はありますか。その中で上位を上げていくと自然環境よりも下にあるということでしょうか。

【田口主査】ございます。今回の結果については回答数上位5つの選択肢のみの報告となっております。

【小川会長】同じくP4の「スポーツ実施場所」の質問において、「公共施設」と回答とした方の割合はどのくらいになるのでしょうか。

【田口主査】14.8%になります。

【馬場委員】なぜ、公共施設を利用している方の割合が低いのかということを考えなければいけないかと思うのですが、「習慣化・始める条件」の回答について、身近に施設があると回答した方の割合が高いので、どれくらい身近であればよいのかという要因かを分析することが必要になってくるかと思います。

【小川会長】小中学校の校庭夜間開放において市内の学校を満遍なく利用しているのに、公共施設を利用している方の割合が少ないのはどうしてでしょうか。

【田口主査】設問の回答の選択肢の中に、「公共施設」とは別に「学校（体育館・校庭等）」との選択肢を設けており、こちらは6.3%という結果となっております。

【小川会長】ありがとうございます。そのほか何かございますでしょうか。

【吉澤委員】スポーツの手段の中にビーチを活用した取り組みということに焦点をあてて活動しているのですが、スポーツ実施率の結果が前回調査から横ばいということで、今現在あるスポーツとはまた違った目線でのスポーツおよびレクリエーションが必要になってくると思います。健康増進や精神的ストレスを排除するためのスポーツや、競技性を高めることもまたスポーツですが、今回のアンケートでは自分の体に良いものをスポーツと捉えられていると感じました。私どもは年に一度、稲毛海浜公園でジャパンビーチゲームズフェスティバルを開催しており、約1万人以上の方にお越しいただきビーチにふれあい楽しんでいただいております。現在、都内では仮設ビーチを設置するほどビーチに対する需要は高まっております。スポーツに対して使ってもよい金額についてもそれほど高額ではなかったなので、ビーチをうまく活用することで、スポーツ実施率が向上するのではないかと思います。

【佐倉委員】「スポーツを“みる”ことについて」の設問は、プロスポーツを観たかという設問になってはいないでしょうか。

【田口主査】「スポーツを“みる”ことについて」の設問は、「この1年間に直接会場で観戦したか否か」という質問から続いて、選択肢の中で「プロスポーツ」、「アマチュア・実業団スポーツ」、「高校・大学スポーツ」、「中学生以下のスポーツ」、「パラスポーツ」の選択肢から回答していただいております。さらにそこから、頻度などを質問しており

ます。結果としてプロを観たという方が多かったという結果となっております。

【佐倉委員】ありがとうございます。「競技ごとの現地観戦率」について、種目のみの回答結果となっておりますが、こちらは競技レベルごとに分かれているとより分かりやすいと思いました。

【田口主査】完成版の中に表現できるかというところを含めて今後検討して参ります。

【利渉委員】「スポーツ現地観戦への支払い意思額」の設問は、アマチュアスポーツに対しては、あまり効果がない設問ではないかと思えますので、「競技ごとの現地観戦率」と同様に、レベルごとに分けていただくとより意味のある資料になると思います。

【小川会長】ありがとうございます。そのほか何かございますでしょうか。

【高橋委員】「この1年で行ったスポーツ」については、基本的に個人で行うものに限ったスポーツに限定しているのでしょうか。

【田口主査】団体競技についても選択肢の中に含まれております。

【高橋委員】団体競技があまり結果に出てきていないのは、回答者の年齢が影響しているのでしょうか。

【田口主査】実施した種目と、やってみたい種目は別であり、乖離は認められるところです。

【小川会長】続きまして、報告事項の「部活動地域移行」について、保健体育課よりお願いします。

【青木主任指導主事】＜査料7により報告＞

【小川会長】ありがとうございました。ただいまの報告について、何かご質問・ご意見等ございますでしょうか。

【五月女副会長】令和6年度の実証実験における指導者の選定はどのように行っているのでしょうか。

【青木主任指導主事】指導者については、中学校部活動と連携して行っており、まずは部活動の顧問に休日部活動の指導の意向調査を行います。次に人材バンクに募集をかけ、集まった方を事業者で紹介および面接を行い、条件を満たす方を任用した経緯となっております。そのほか事業者が独自に募集を行うなどして指導者を選定しております。

【五月女副会長】選定結果については、市スポーツ協会や少年スポーツ連盟担当者への連絡は行っていないということでよろしいでしょうか。

【青木主任指導主事】その通りです。

【青木主任指導主事】可能であれば、そのような情報を各種目団体等に共有していただけると、今後の関わり方についても検討できるかと思います。

【青木主任指導主事】ご意見ありがとうございます。

【小川会長】競技人口の多い種目については、今後どのように部活動地域移行を進めていくのでしょうか。

【青木主任指導主事】現時点では、開設されている部活動をどのように地域移行していくかということで進めておりますので、進めていく中での状況や課題を踏まえて、今後検討していきたいと考えております。

【小川会長】ありがとうございます。他にございますでしょうか。

【利渉委員】実証事業はとても大事な期間であると考えております。現時点で様々な課題があるとお聞きしましたが、千葉市の中で一番の課題と目指しているゴール（理想像）について教えていただけないでしょうか。

【青木主任指導主事】千葉市として部活動地域移行のゴールについては現在、検討中になります。

課題については、指導者への報酬に係る財源の確保や平日および休日の指導者との連携等、様々な課題があり、一番の課題を明言することができないのですが、各方面の意見をとりいれながら、検討していきたいと思います。

【利渉委員】ありがとうございました。個人的には千葉市ならではの事業モデルができたらいいなと考えており、千葉市には多くのプロスポーツチームがあり、そのチームのOB・OGの活用をしていくことで、他にはない新しい事業モデルが創れるのではないかと思います。

【青木主任指導主事】ありがとうございます。

【小川会長】県内では柏市が先行事例としてよく挙げられると思うのですが、なにか学ぶ点はございますか。

【青木主任指導主事】合同クラブの基準を明確に持たれているという点が、とても参考になると感じております。

【小川会長】ありがとうございます。他にございますでしょうか。

【馬場委員】市原市では、前提に部活動という概念をなくすということを置いており、地域に子どもたちが自由に楽しくスポーツをできる環境をどのように作るかがスタートで、部活動がなくなることをゴールとして見据え、そのゴールに向けて何を取り組んでいくかということを検討しております。現在、市原モデルの一つとして、指導者は研修ではなく、養成するというスタイルで市原市独自のベースプログラムと競技別のプログラムを今年度から実施しております。また、クラブの認証制度をつくり、自治体としての基準を定めました。こちらの認証を受けると、トラブルがあった際の対応窓口の利用が可能となります。また、平日のみスポーツをする子、休日のみスポーツをする子、シーズンごとに種目を変えてスポーツをする子などいかなる状況にも柔軟に対応できること、高校生になっても受け入れてくれるような仕組みづくりに取り組んでおります。そのような仕組みを作ることで、他趣向、多世代の方と地域で連携することで総合型クラブを作り上げていこうと動いております。

【小川会長】他に何かございますでしょうか。

【各委員】<なし>

【小川会長】次に、議事に入ります。議事「令和7年度のスポーツ団体に対する補助金の交付案」について説明をお願いします。

【田口主査】<資料8により説明>

【小川会長】ただいまの審議事項につきまして何かご意見ありますでしょうか。

【佐倉委員】前年度から補助金額が減っている原因は何でしょうか。

【田口主査】人員の入れ替えによる人件費の削減が主な原因であります。

【佐倉委員】人件費削減の詳細を教えてくださいませんか。

【布施事務局補佐】当協会では定年を迎え退職する職員がおり、退職者補充のために新規の職員を採用することで賃金差が発生する関係で人件費が縮減されております。

【小川会長】他に何かございますでしょうか。

【各委員】<なし>

【小川会長】それでは、審議事項「令和7年度のスポーツ団体に対する補助金の交付(案)」についてご承認をいただけますなら挙手をお願いいたします。

【各委員】<了承>

【小川会長】それではすべての委員からの承認をいただきましたので、交付を決定させていただきます。それでは、議事については以上としたいと思います。進行を事務局にお返しします。

【伊橋課長補佐】小川会長議事進行ありがとうございました。それでは、これもちまして、「令和6年度第2回千葉市スポーツ推進審議会」を終了致します。ありがとうございました。
閉 会 午後4時15分